（2） 幼 児 の 保 育

幼児期になると心身ともに成長を遂げながら、社会性が発達し、仲間といることに喜びを感じるようになります。そして、大人や子ども同士のかかわりの中で、信頼感、自主性、協調性などを形成していきます。また、さまざまな体験を通して、豊かな感性や創造性の芽生えを培っていきます。

人間形成の基礎を育む大切な時期に、大人や仲間に受け入れられ認められることによって、子どもは自信や意欲をもち、安心して自分の気持ちを出せるようになり、他の子にもいろいろな気持ちがあるということに気づきます。それはやがて、互いに共感し、人を大切に思う気持ちにつながっていきます。

人権保育の視点

・自分を大切に思う心を育て、自分らしさを発揮して、主体的に生活するために必要な力を育てる。
・人にはさまざまな思いや考え、感じ方があることを認めて、ともに楽しく生活する関係をつくる。
・人と共感したり、人を大切に思う心を育てる。

具体的な対応

・一人ひとりの子どもの生育環境や特性、発達の課題に応じ、気持ちに寄り添って援助する。
・柔軟な姿勢と広い視野で子どもをとらえ、子どもの意欲が育つように主体的な活動を子どもとともにつくる。
・子どもの発見や気づきを大切にし、共感して受けとめる。
・知らず知らずのうちに身につけてしまった先入観や決めつけたものの見方を、子どもの生活や遊びのなかに持ち込むことのないようにする。

◆　保育の事例

自分らしさを発揮し、互いを認めて育ち合う

保育者は、子ども一人ひとりの思いを受けとめながら、子ども同士のかかわりをもたせていくことで、豊かな人間関係の基礎を育んでいきます。子どもはそのかかわりの中で、ぶつかり合ったり、認め合ったりしながら、保育者や友だちといる楽しさを味わい、ともに主体的な活動をつくり出していきます。

「クラス対抗リレーを通して育つ子どもたち」　5 歳児 10 月の記録

リレーが大好きで９月の後半から毎日エンドレスリレーを楽しんでいる。初めの頃はチームの意識はほとんどなく、誰と一緒に走るかに関心が向いていた。二人がそれぞれバトンを持ってトラックを走り、一緒に走った子同士で「勝った」「負けた」と一喜一憂する。リレーを繰り返し楽しむうちに、子どもたちの気持ちは少しずつ変わり、最近ではチームの意識、すなわちクラス意識が生まれてきた。「今日は勝ってうれしかった」「○○ちゃんが転んだから負けた」「向こうの組は足の速い子がいっぱいいる」など、話が弾む。

初めは勝敗の原因を個人の攻撃や、相手のせいにすることが多かった。中には友だちの言葉に傷つく子どももいる。保育者は、「転んでも最後まで頑張って走ったね」と抱きしめたり、「○○ちゃんは家に帰ってからお母さんと一緒に走る練習をしてるんだって」等、本人の気持ちをそれとなく周りの子に伝えたりして、その子が自分なりに力を発揮している姿を認め、相手の立場に立って考えられるように言葉をかけてきた。

保育者を中心にして話し合いを重ねることで次第に「負けていても最後まで走る」「みんなでリレーをするのは楽しい」と言う声が聞こえ始め、「転んだ子の分まで走る」「○○ちゃんは走るのが速くなってきた」と、友だちの姿を認める子どもも出てきた。どうしたら相手のクラスに勝つことができるかを一人一人が考え、行動に移していくようになり、クラス全体が気持ちを一つに合わせられるようになってきた。

（平成 15・16 年愛知県幼児教育研究協議会報告より抜粋）

みんなで話しあい

子どもの発見や気づきを大切に

幼児期は、やわらかな心で美しいものを美しいと感じたり、新しい発見に驚いたりして、情緒や感覚をふくらませて違いに気づいていく時期です。

あっ、いたいた
だんご虫発見！

土の中に幼虫
がいるんだよ
掘ってみよ～

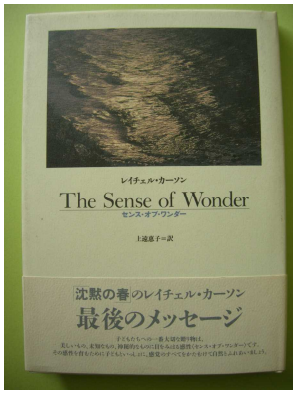
ざりがにの
はさみって
強いよね

ここを持てば
いいんだよ

見てみてぇ
ほらあそこ！石の
下にさかながいるぅ

からすがゴミを食べてたよ
本当は何を食べるのかなぁ

子どもたちのまわりは不思議がいっぱい！
そして、子どもは不思議発見の名人です。



『センス・オブ・ワンダー』（佑学社）
レイチェル・カーソン著

自然の美しさ、生命の輝き、あらゆる生きものの営みに触れ、心をわくわくさせることのすばらしさが伝わります。

保育のなかにみられるジェンダー、性別役割

幼児期になると認知面の発達とともに、性別について理解していくようになります。さまざまな経験を広げていくその時期に、大人社会によってつくりあげられた男女観や固定的な性別役割が、知らず知らずのうちに生活や遊びの中に持ちこまれていることがあります。

例えば・・・

◎男子が先に編成された名簿

◎マークや色を性別で選択する

青は男の子・ピンクは女の子

車のマークは男の子・花は女の子、など

◎ことばや態度で男らしさ・女らしさを押しつける

「男の子でしょ、泣かないで」

「女の子らしく優しくしてね」など

◎性別で遊びを決めつける

女の子はままごと・サッカーは男の子、など

◎性別による固定的役割分担

ご飯をつくるのはお母さん・お父さんは仕事、など

◎性別で職業を決めつける

トラックを運転するのは男性・保育士は女性、など

（日進市男女共同参画啓発漫画）

あなたは写真を見てなにか感じますか？

男性保育士

ままごとあそびで料理をする男の子

「女であること」「男であること」を理由に選択の幅を狭くしてしまうことのないように、いろいろな役割や見方を提供しながら世界を広げていけるようにすることが大切です。

※　ジェンダーは社会・文化的性差と呼ばれ、生物学的性差以外のすべてを言います。
性別役割分業もジェンダーの一部であり、社会的、文化的につくられ、変化していくものです。
「女らしさ」「男らしさ」も文化的に学習され、つくられていくものです。

（「男女共同参画プランなごや２１」による）